

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議において、全員で共有するために理念の確認を行い、ご本人の思いや願いを大切にす為、行動や言葉から発しているメッセージを受け止め、その方らしい居心地の良い生活を送る事が出来るよう支援していく。	法人が掲げる「三つの理念」があり、職員会議等の場で具体的に確認をしながら職員全員で意識を高めている。日々の関わりの中で理念にふさわしくない言動が職員に見られた場合にはその都度管理者が助言等を行い、理念通りのケアが実践できるように取り組んでいる。本人や家族には契約時に理念等を説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一緒に過ごす時間を設けたり、地域にお住まいの関連施設のデイサービスご利用者様と交流する機会を設けている。関連施設である特養とも協力し、お祭りの際は獅子舞を施設にて舞っていただいております。	歌、ギター、フラダンス、南京玉すだれ等、沢山のボランティアを積極的に受け入れ交流を深めている。また、母体ともいべき直ぐ近くにある特別養護老人ホームのデイサービスのイベントにも参加し、そこに通う地域の利用者やボランティアとも交流している。	次代を担う地域の幼児や児童、生徒など子供達との更なる交流を通じ、高齢者や認知症、認知症グループホームなどに自然に接していただけるような具体的な工夫や取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、施設をご理解いただく機会を設けている。今後、防災訓練などで地域の方にもご参加いただいたり、ボランティア来所時は、利用者様の過ごしている様子や職員の対応など見ていただける機会を増やしたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しています。会議の時に現状報告を行い、区長さん等から地域で活動しているボランティアを教えていただいたり、要望等意見を頂き活動に繋げるよう取り組んでいます。	参加メンバーは利用者や家族、前区長、現区長、民生委員、市担当者、消防団員などで構成され、奇数月に開催されている。現状報告、活動報告、行事報告、ヒヤリハット及び事故などのトラブル報告等を行い、意見や助言を頂いている。出された意見は職員会議等で全体で話し合い、実践できるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じ、現状を知っていただき、アドバイス・意見などお聞きし、連携を計っている。	運営推進会議を通じてホームの現状を知っていただき、日頃から相談や報告もしている。介護認定の更新や区分変更の申請等、家族の依頼があれば代行申請を行い、認定調査時には市調査員にホームでの暮らしぶりや様子を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内は自由に行動して頂いている。施設の周りには田畑や山の為、離設時の危険を防ぐ為に施錠をしている。外出したい時は職員が同行している。	職員会議で身体拘束を正しく理解するための研修を行い、全体で周知し実践に活かしている。ひもときシートを活用してアセスメントを行い、要因となることを分析し身体拘束のないケアに取り組んでいる。ホームのある場所は高台にあり、近くには山、畑等の自然豊かな環境にあるが、利用者の安全を一番に考え、また、家族にも状況を説明し玄関の施錠をしている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会の設置や職員研修を通じ、身体的だけでなく、言葉の虐待についても注意するよう、職員同士意識しながら防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を今後行い、理解を深められるように研鑽していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明時に理解していただけるように時間を設け説明させていただいている。不明な点は随時説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に過ごされている様子をお伝えし要望を受けて対応方法を改善したりそれについての話し合いを行っている。	毎月の誕生会、敬老会や家族会等を計画的に開催し、遠方に住む家族も参加できるように配慮がされている。また、基本的に定期受診の付き添いを家族にお願いしているので家族も少なくとも月1回は来訪しており、ホームでの様子を口頭で伝え、話しやすい雰囲気作りにも心掛け、意見や要望等を運営に活用している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議にて意見や提案を聞いたり、取り入れたりし、改善するなどして。	毎月実施される職員会議で意見やアイデアを発表できる場があり施設長や管理者が共有している。更に、朝夕の申し送りでは、連絡ノートを活用し、日々の意見や提案等を伝えられるようにしている。施設長面談を毎年行っており、職員の事前アンケートも実施し、具体的な要望、職務形態等についても話し合う機会を設けている。法人として職員のメンタルヘルス不調を未然に防ぐことを目的としたストレスチェックも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が年1回職員の意見、要望や仕事への取組みを聞き取り人事考課へ反映している。個人の事情に応じ希望を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修はもちろん外部講師を招き、研修も行っている。外部研修の情報を収集し、今後参加を進めていく。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設にあたって情報をいただいた施設との交流や、相互訪問をするなどネットワークづくりに努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時に生活歴等情報、好まれて行っていた習慣などを伺い、入所後は安心へと繋がるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅での様子、援助してきたこと、困っていることなどを聞き取り利用者の中の様子からご家族に経過報告し、家族の思いを支援に取り入れています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況から、適切なサービス提供施設、ケアマネージャー等からの情報で、必要なサービスを選択できるよう相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は一緒に行ってもらったり、知っている事を教えていただき、支えあえる関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には本人が安心して過ごせるような関係づくりを継続していただけるようにと、職員は声掛けに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人・近所の方など訪問があり、訪問時には気軽にご面会いただける雰囲気づくりに心掛け、ゆっくり交流して頂いている。	家族の面会の他、親戚、知人、近所の方の訪問を受ける利用者がある。ホームの、広いソファのあるスペースでゆっくりと気兼ねなく面会の時間を楽しんでいただいている。自宅のある公民館での高齢者いきいきサロンに参加する利用者もいる。昔から行きつけの美容院からの美容師が来訪しセットなどを受けることもでき、地域の情報を聞く大切な時間となっている。携帯電話を持ち、親戚や知人と連絡を取り合う方もいる。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じ職員が間に入りながら、利用者様同士が交流し、親しくできるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	次のサービス利用への移行まで事業所と連絡調整を行い、本人ご家族共不安にならないようお手伝いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を確認し、職員間で情報共有しながら、極力サービスに取り込むようにしている。	利用者の半数位の方が何らかの形で自分の思いを表出することができる。日々のケアやひもときシートを使ったアセスメント、生活歴等から意向の把握をし全職員で共有するように努め、できること、したいことなど、意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしをご本人・ご家族・ケアマネジャーから情報を収集し、入居も家族等に聞きながら、馴染みの暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活習慣を把握したり、表情などから本人の心理状態を把握し、興味のある事柄等観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の介護記録等や、身体状況、生活において変化があった場合にカンファレンス、モニタリングを行い計画を作成している。	職員の居室毎の担当制を布いている。基本的に3ヶ月毎に見直しをするようになっており、毎朝、毎夕の申し送りなどでも話し合いを行い、身体や日常生活に変化があった場合には関係者と話し合いその都度計画の変更をしている。	現状に即した介護計画に近づけるために、特に短期目標については各会議において話し合いを積み重ね、定期的に見直しをされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化やその時の気づきなど、細かく記録し、情報を共有している。引継ぎ前には、記録を確認し、変化については話し合いをしてケアの見直しに結び付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方を支える家族構成、関わっている方の年齢などから、車イスの方の受診の送迎などこちらで支援させていただいたり、外部サービスなどその時々ニーズに対応している。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、民生委員、消防団の方々に運営推進会議メンバーになっていただいています。また多くのボランティアに來所いただいたり、理容院の方が月1回来て下さり、地域の話などしていただきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの本人が信頼をよせているかかりつけ医に継続して受診しています。かかりつけ医を持たない方は近くの往診が必要になった時に往診可能な医師を紹介しています。訪問歯科もご利用いただいています。	本人や家族の希望するかかりつけ医で受診を継続できるようにしている。受診時にはホームでの様子や身体状況等について情報提供するようしており、希望する医療が受けられるよう支援を行っている。受診後の結果についても情報共有が出来るように職員間の連絡を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	近くにある系列施設の看護師に判断に迷った時、緊急時など対応方法を相談したり、助言を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、退院後の情報提供がある時は、同席させていただき、退院後は今後についてご家族とも相談させていただいています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に今の状況を説明し、今後についての相談をさせていただいている。事業所で何が出来るか、職員間の話し合いも行っている。	契約時に重度化や終末期に向けたホームの方針やできること(体制や力量)を説明し同意をいただいている。状態に応じた段階的な話し合いや次の移設先を視野に入れた家族との話し合いを随時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今後、救命救急講習を全員が受講し、急変時に対応できるようしていく予定です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間帯に分けて行い、職員は持ち場、役割分担に基き行動ができるようにしている。訓練の協力を区長様、自衛消防団の方にもお願いしています。	消防署の協力を得て、火災時想定のお知らせ、避難誘導、消火の各訓練を行っている。昼、夜間と想定を変え、利用者も一緒に避難し、実践的な取り組みを行っている。災害時に備えずぐ近くの同じ法人運営の特別養護老人ホームに備蓄があり、ホーム独自の備蓄として水も用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の特性を今後も生かし個々を大切にしながら、尊厳を保持した関わりを心掛けている。	プライバシー研修会を行い全職員で意識を高めている。利用者は苗字に「さん」、同姓の場合には名前に「さん」をつけ敬意を込めて呼ばれている。異性介助の時には説明し確認をしている。面会時に記入する面会簿は個人情報が出ないように一枚毎に使用する様式を使用し適切に取り扱いがされるように工夫がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定の場面を作ってもらえるよう努めている。日常生活の中で思いや気持ちを引き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な対応でなく、動きがゆっくりな方はゆっくりと、その方のペースに合った生活を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月理容師に来て頂き、髪形を整えています。本人の希望にも沿った髪形にもしています。服も自分で選べる方は好みで選んで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材として、利用者様に芋ほりや野菜の収穫のお手伝いをいただいたり、好みを聞いて馴染みのメニューを取り入れるようしています。食器洗いも一緒に行っています。	一人ひとりの力や気持ちを引き出し、利用者と一緒に準備から片付けまでしている。献立には利用者の食べたい物や行事食(お盆、正月、クリスマス等)、ホームの畑で利用者と共に育てた野菜を取り入れている。外食をする機会は少ないが、バイキング形式にする等して食事が楽しみなものになるように工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認をし、摂取量が少ない時は、補うようにしています。飲み込み困難な方には、トロミを使用したり、好き嫌いなどの好みにもそえるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、その都度声掛けし、口腔ケアをその方に応じ行っている。訪問歯科もお願いしている。		

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その時の状態にもよりますが日中は全員がトイレにて排泄しています。排泄パターンの把握に努めその方に合ったペースで排泄できるようにしています。	布パンツの方が三分の一ほどおり、日中はトイレで排泄ができるように、個々の排泄パターンを把握し、パット類も本人に合わせて検討し、排泄の自立に向けた支援を行っている。在宅時の習慣もあり、夜間を含めポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、水分摂取も気を付けたり、乳製品、オリゴ糖などで自然の排便を促している。医療からその方に合った整腸剤も服用いただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、本人の体調、その日の気分によっても入浴できるように支援している。菖蒲湯、りんご湯などの季節のものも取り入れている。	月曜から土曜の概ね午前中に入浴できるように準備をし、一人ひとりの体調やタイミングにあわせて支援をしている。脱衣所や浴室は車椅子や介助者が入っても十分なスペースがあり、ゆっくりと入浴ができる環境である。湯船にりんごやゆずを浮かべ季節を楽しめるような工夫もされている。三つの浴槽があり三方向から介助ができる。また、リフトが常設されており、足上げの悪い方や重介護の利用者も安全に湯船に浸かることができ、職員の身体的負担も軽減されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者が自由に好きな時に好みの場所で休んでいただいている。夜間は利用者が眠くなった時に休んでいただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を全職員が常時見れる場所に置いている。また、誤薬、投薬漏れがないよう、服薬は2名でチェックを行い服薬ミスを防いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好きな事、したい事を見つけ日常生活に取り入れている。タバコなどの嗜好品も楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	雨天でない限り、毎朝散歩をしていただいています。体調・気分・天候により、歩行距離を自身で調整していただいています。馴染みの場所や名所にドライブに出掛けることもあります。	ホームの広い敷地を活用した毎朝の散歩が日課となり日常的に外気に当り気分転換をしている。年間の外出計画を立て、馴染みの場所や名所を訪ねている。春には花見、藤・あじさい・バラの見学、神社の菊花展等を訪れ、帰日にはソフトクリームを食べたり甘酒を飲み、リフレッシュしている。	

認知症高齢者グループホーム森の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の支援を受け個人でお金を管理している方がいる。ご家族付き添いで受診する時、手持ちのお金を使用したり、理髪時など支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で連絡を取ったり、ご家族の協力を得ながら、希望のある時は自由に話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった飾り付けや花などで四季を感じていただいたり、大きな窓から四季折々の景色を楽しんでいる。	温泉施設跡地の建物を改修して使っているためホームは全体的に広々としており、共有スペースであっても他人に気遣うことなく過ごすことができる。利用者は思い思いの場所でテレビを見たり、新聞を読んだり、お喋りを楽しんでいる。調度品を置き、写真、利用者の作品、大きな油絵を飾る等、広さを上手く取り入れた工夫がされている。玄関からの共有スペースはガラス越しに外の景色を眺めるのには最高で、自然光が差し込みゆったりと過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、お話をしたり、景色を眺めたり、新聞を読んだり、思い思いの場所で過ごしていただいている。落ち着かない方は気の合う方と交流していただくよう、職員が支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真やご家族からのメッセージが置いてあったり、馴染みの家具などお持ちいただき、落ち着いた居心地の良い雰囲気づくりを心掛けています。	居室毎に広さに違いはあるが、ベット、床頭台、洗面台、収納庫が全居室に完備されている。使い慣れた家具や大切な品々を持ち込む方、広い居室を有効活用し自分の持ち物の一切合財を持ち込み、自分らしい居室作りをしている方もあった。居室入り口には施設長自らが撮影した沢山のバラの写真の中から利用者自らが好きなバラの写真を選び表札代わりに掲げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に応じて居室ベッド、タンスの配置を換え安全を図っている。利用者様によっては居室に名前を貼り、わかりやすいようにしている。		